

所属・資格 国文学科・教授

申請者氏名 竹下 義人

研究課題		月並俳諧の研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>昨年度実施した「伊賀俳壇における芭蕉追善の諸相」の研究過程で、伊賀俳壇における芭蕉百五十回忌追善（天保14年）が、当時流行していた月並句合興行と強く結びついている事実をつかんだ。今季はその手掛かりを踏まえ、テーマを「月並俳諧の研究」とし、月並俳諧が隆盛した天保期から明治期にかけての月並句合興行の実態を、関連資料を博搜、調査することで究明していくことを目標とした。具体的には、月並句合の興行に直接かかわる「募句ちらし」と「返草」のそれぞれの資料の詳細な調査・分析を進め、そこから得られた成果・知見をまとめることから始めた。</p>
	研究の 結果	<p>月並句合の興行実態を伝える根本資料としては、一枚摺の「募句ちらし」と冊子の「返草」がある。今回はこれまでに収集してきた資料中から、一次資料に相当する「募句ちらし」を扱った。そのうち、伊賀俳壇に関する資料群がまとまっていることに着目し、今期の研究対象の主要資料と定めることにした。</p> <p>まず、当該資料の収集時から貼り付いていた不要な裏紙の剥離作業を専門家に依頼。返納後にすべての写真撮影をおこない、保存に備えた。その後、一点ごとに書誌調査を実施し、「名目」「兼題」「入花」「判者」「景品」「締切」「補助・届所」「主催」「注記」などの記載情報を整理し、あわせて翻刻を施した。その調査過程で得られた分析結果と知見をもとに論文作成に着手した。なお、資料の整理中に見出した別件の一枚摺資料については、内容の検討が早期に完了したため、資料紹介の論考としてまとめ、投稿した。</p>
	研究の 考察・ 反省	<p>今期の課題に対応した月並句合資料の「募句ちらし」については、前年度の反省を踏まえて慎重な対応を心掛けたため、資料の修復をはじめ、書誌調査などにも十分な時間を割くことができた。その結果、最終的に論文としてまとめあげられるだけの情報や新たな知見が得られた。今回の資料群の存在とその分析結果は、未解決の課題を多くかかえる月並俳諧研究に、とりわけ地方における興行の実態解明へとつながる新たな一助となりえるものと判断する。</p> <p>反省点としては、如上の資料群の出所に関する解明が不十分に終わってしまったことにある。今後の課題としたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究成果物 一枚摺資料瞥見「梅園披露」、『語文』163輯、2019年3月25日、日本大学国文学会</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		